

区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	対前年度比	図書館運営全体				
図書館運営	基本的サービス				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
	資料購入費:決算数値(千円)	55,704	50,642	9.1%減	・資料購入費が毎年減額されているが、様々なジャンルにおいて利用者のニーズ等を踏まえ、適切な選書を実施し蔵書を増やすよう努めた。 ・貸出冊数は、夏の閉館時間の繰り上げの影響により減少した。また、入館者もH23年度は約71万2千人で、H22年度の74万3千人の4%減であった。 ・登録者は毎年減少している。新規登録者の増加が課題であるため、広報紙・ホームページを工夫するとともに、「ほんぼーとまちなかサテライト」の活用や事業の実施等により、広く市民に図書館利用を促したい。	1 大変評価する。10% 2 ある程度評価する。90% 3 評価できない。0%	・登録者を増やすため、レファレンスサービスをもっと周知する。 ・質の高い選書を心掛けてほしい。 ・図書館利用のPRを重点的に取り組んでほしい。		
	蔵書冊数(冊)	372,746	394,703	5.9%増					
	貸出冊数(点)	1,430,674	1,401,888	2.0%減					
	登録者数(人)	60,114	52,798	12.2%減					
(内新規登録者数)	8,071	6,471	19.8%減						
区分	評価指標	平成22年度	目標値(H23)	理由	平成23年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業	課題解決型図書館				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
	レファレンス件数(件)	4,124	4,200	対前年度増	4,058	2	・レファレンス・ビジネス支援サービスは、館の重点事業に掲げ取り組んだことが利用者に浸透した結果と評価したい。今後 も、課題解決型図書館の重点項目と位置付け、努力していく。 ・予約数の増加は、全館オンライン化により館に所蔵のない本も利用可能となるなど、利便性が向上したことが影響した。 ※ホームページは全市立図書館の自己評価を参照いただきたい。	1 大変評価する。20% 2 ある程度評価する。80% 3 評価できない。0%	・ホームページの利用者について、ターゲットを絞った取組も実施してほしい。 ・レファレンス対応職員が一目でわかるような工夫をお願いしたい。 ・指標値は増加しており、今後も期待している。
	個人予約件数(件)	143,249	144,000	対前年度増	148,118	4			
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	330	300	教育ビジョン	340	4			
	ホームページアクセス件数(件)	1,657,851	1,470,000	新・総合計画	1,311,816	1			
	分権型図書館				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	33,419	35,000	5%アップ	34,821	3	・特別コレクション室では、年4回新潟市ゆかりの作家や郷土をテーマに展示会を実施しており、好評を得ている。また、地域研究グループとの共催で「天折の画家金子孝信と蒲原神社」と題した連続講座を開催するとともに、郷土資料の紹介に努め、貸出冊数が増加した。	1 大変評価する。70% 2 ある程度評価する。30% 3 評価できない。0%	・蔵書の紹介に努め、貸出に繋がられたことを評価します。 ・地域密着型を評価します。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	8,347	8,600	3%アップ	8,648	4			
	学・社・民融合型図書館				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
	児童書の貸出冊数(冊)	262,309	263,000	対前年度増	260,479	2	・児童書や小中学生への貸出冊数は、夏場の閉館時間の繰り上げもあり、貸出冊数同様減少した。 ・絵本の読み聞かせ等子ども・親子を対象とした事業を昨年度より多く実施し、参加者に読書の大切さをPRできた。 ・職場体験受入は、希望学校が重複し断る場合があったため、学校や園との調整や連絡を密にしていきたい。	1 大変評価する。60% 2 ある程度評価する。40% 3 評価できない。0%	・子ども、親子対象事業は今後も充実してほしい。 ・職場体験を今以上に受け入れてほしい。特に中学生。 ・子どもたちに対し、読書の大切さについてPRできていると感じている。 ・図書だけではなく、新聞活用教育にも力を入れてほしい。 ・貸出冊数が増加したことを評価します。
	小中学生への貸出冊数(冊)	132,436	134,000	施設目標	129,137	2			
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	6,585	6,600	対前年度増	8,598	4			
	職場体験受入人数(人)	71	80	施設目標	64	2			
	講師等としての派遣職員数(人)	35	50	施設目標	49	2			
	パートナーシップ型図書館				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
	図書館事業のボランティア活動者数(延人数)	348	350	対前年度増	1,078	4	・図書館の事業において、ボランティアの存在は欠かせないものになっている。ブックスタートボランティアの活動が始まったこと、対面朗読等協力者が増加したこと、ボランティア団体と協働した事業を実施したこと等により、ボランティア活動者数が大幅に増加した。 ・ボランティア団体交流会は白根図書館友の会が主催して実施したため減となった。 ・共催事業は施設目標に掲げ、積極的に実施している。	1 大変評価する。40% 2 ある程度評価する。60% 3 評価できない。0%	・ボランティア団体の交流の拡大を期待します。
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	87	90	対前年度増	39	1			
	利用者懇談会の開催回数(回)	—	—	H26までに実施	—	—			
	共催事業の実施回数(回)	32	35	施設目標	38	4			
	運営(職員)				自己評価	外部評価(%は外部評価者の割合)			
研修参加職員数(人)	—	130	施設目標	187	4	・毎年実施している初任者研修やレファレンス(調査・相談)研修に加えて、各図書館の職員交流研修(他館での業務体験)を実施し、業務改革・改善や職員の資質向上を図ったことは、非常に有意義であった。	1 大変評価する。50% 2 ある程度評価する。50% 3 評価できない。0%	・図書館同志の交流研修を継続してほしい。 ・職員の資質向上は、図書館の質の向上に繋がる。 ・レファレンスの向上は図書館の評価を高める。	

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針, 新・総合計画:市の目指す都市像に向けた行政計画, 組織目標:市が実施している組織ごとの行政評価